全人的健康が良好である勤労者の心理社会的特性と健康行動

—決定木分析を用いた探索的検討—

○羽山順子¹・津田彰²・伏島あゆみ³・田中芳幸⁴・岡村尚昌⁵・永田勝太郎⁶・山本哲郎⁷

(¹広島国際大学心理学部、²久留米大学文学部、³金沢工業大学基礎教育部、⁴京都橘大学健康科学部、⁵久留米大学高次脳疾患研究所、⁶国際全人医療研究所、⁷株式会社 TTC)

キーワード：全人的健康、決定木分析、働く人のこころとからだの早期健康チェック (CHCW) 質問紙

Association of psychosocial status and health behaviors
with good comprehensive health status in workers in Japan.

Junko Hayama¹, Akira Tsuda², Ayumi Fusejima³, Yoshiyuki Tanaka⁴, Hisayoshi Okamura⁵, Katsutaro Nagata⁶, Tetsuro Yamamoto⁷

(¹ Hiroshima International Univ., ² Kurume Univ., ³ Kanazawa Institute of Technology, ⁴ Kyoto Tachibana Univ., ⁵ Institute of Higher Brain Disease Research Center, Kurume Univ., ⁶ International Foundation of Comprehensive Medicine, Research Center, ⁷ Total Technological Consultant Co., Ltd.)

Key Words: comprehensive health status, decision tree, CHCW Questionnaire

目 的

演者ら(2012)は、働く人のこころとからだの早期健康チェック (Comprehensive Health Check for Workers, CHCW) 質問紙を、身体的、心理行動的、社会的、実存面といった、全人的な健康状態を簡便に測定することを目的に開発した。

本研究は、決定木分析を用いて、この質問紙によって評価される「心身の健康状態および社会的環境が良好であると自己評価し、生きがいを持って生活できている」全人的な健康状態が良好である勤労者の心理社会的特性と健康行動を用いて明らかにすることを目的とした。

方 法

1. 対象者：分析対象者は全国の勤労者 3077 名 (男性 1592 名, 女性 1485 名, 平均年齢±SD43.8±10.1 歳)。
2. 調査尺度：1) CHCW 質問紙：30 項目 5 件法の質問紙であり、健康状態の 4 側面 (身体的、心理・行動的、社会的、実存的) を測定。4 側面の合計得点を全人的健康として用いた。2) 心理社会的特性：婚姻歴、勤務形態など社会的属性 8 項目、肥満度、治療中の疾患の有無の身体健康 2 項目。3) 健康行動：睡眠時間など 4 項目であった。
3. 調査時期：2011 年 11 月から 12 月の 1 か月であった。
4. 手続き：1) 対象者のリクルート：ウェブサイト「生活向上 web (<http://www.seikatsu-kojo.jp/>)」にて参加者を募集し、オンライン上から回答を得た。2) 分析手続き：CHCW 質問紙のカットオフポイントに基づき、対象者を全人的健康が良好である者とそうでない者に分けた。さらに心理社会的特性と健康行動 14 項目 (年代、性、学歴、婚姻歴、治療中疾患の有無、肥満度、雇用形態、役職の有無、夜勤の有無、休日日数、睡眠時間、一週間の運動回数、喫煙、飲酒、1 か月間のストレス経験頻度) を用いて、決定木分析 (Classification And Regression Tree: CART) で解析した。分岐の基準にはジニ係数を利用した。用いたデータは全てカテゴリカルデータであり、小数点以下の数値で示された分岐点は、全て整数での分岐変数に修正した。
5. 倫理的配慮：久留米大学倫理委員会の承認を得た。

結 果

1. 対象者の健康状態と健康行動

CHCW 質問紙得点の区別に従えば、全人的健康が良好であった者は 844 名 (27.4%) であった。うつ病などの精神的現在症を有する者は 205 名 (6.7%)、BMI から肥満と判定された者は 20.2% であった。喫煙習慣のある者は 22.2%、飲酒習慣のある者は 62.8% だった。

3. 全人的健康に関連する心理社会的特性と健康行動

決定木分析の結果、実存的側面を除く 3 側面 (身体的、心

理・行動的、社会的)、および CHCW の合計得点で示される全人的健康に影響を与える因子は「1 か月間のストレス経験頻度」のみが選択された。すなわち、「(この 1 か月間に) 強いストレスを感じたことがない」ことが、3 側面と全人的健康の良好さに影響していた。

一方、実存的側面の健康に影響を及ぼす変数として、

- 1) 1 か月間のストレス経験頻度、2) 一週間の運動回数、3) 喫煙習慣、4) 雇用形態が選択された (図 1)。

図 1 実存的側面の健康さに関する心理社会的特性および健康行動の決定木

考 察

強いストレス経験の頻度が良好な全人的健康に影響していた。全人的健康状態が良好であるかは、強いストレス経験の頻度を尋ねることによって予測できる可能性が示された。また、運動習慣は生きがいや自分らしさなど自身の生き方に関する実存的側面にも影響することが示唆された。

引用文献

津田彰・下光輝一・小田切優子・伏島あゆみ・田中芳幸・岡村尚昌・山口英世・山本哲郎・Mori, H.・Batthyany, A.・Singh, A. N.・永田勝太郎(2012). 働く人のこころとからだの早期健康チェック (Comprehensive Health Check for Workers, CHCW) 質問紙の開発 全人的医療 11:2-28.
※本研究はストレス・メンタルヘルス研究会 (代表：山本哲郎) の調査研究の二次データ解析をまとめたものである。